

韓国

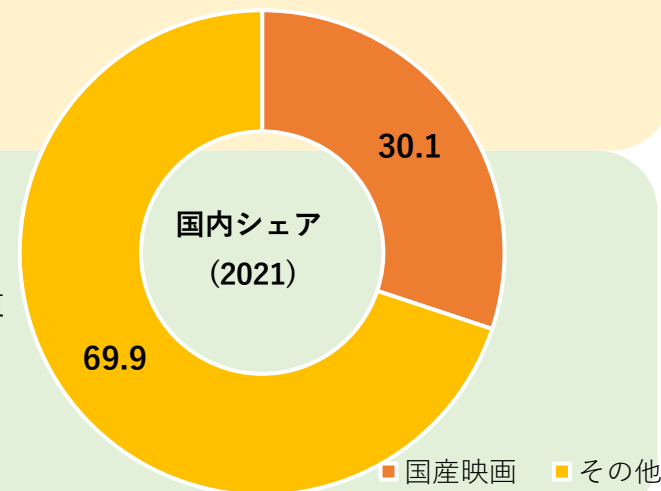


映画産業

- ・年間鑑賞は4.2～4.3回と非常に高く、動員数は堅調にのびていたが
20年21年は1回に落ち込み、興収規模も1/4まで落ち込んだ
- ・ただしスクリーン数はこの間も6%のびた

国内市場

- ・パンデミックにより興収規模は全世界5位→8位 動員数全世界7位→9位へ
- ・しかしながら増加傾向だった映画製作本数は全世界第5位を維持 *公開本数換算
- ・国産映画のシェアが50%前後を占め、パンデミック時は70%となった
- ・興行収入の上位作品は、国内作品かハリウッド作品



市場データ (2021年)

- | | | |
|-----------------------|----------|---------------------|
| ・国内興行収入: | 5180億ウォン | (2019年: 1兆9140億ウォン) |
| ・国内の劇場動員数: | 0.6億人 | (2019年: 2.267億人) |
| ・国内のスクリーン数: | 3,254 | (2019年: 3079) |
| ・平均チケット価格: | 9,653ウォン | (2019年: 8443ウォン) |
| ・一人あたりの年間平均入場回数: | 1.2回 | (2019年: 4.2回) |
| ・マーケットシェアにおける国産映画の割合: | 30% | (2019年: 51%) |
| ・国産映画公開本数: | 653本 | (2019年: 502本) |

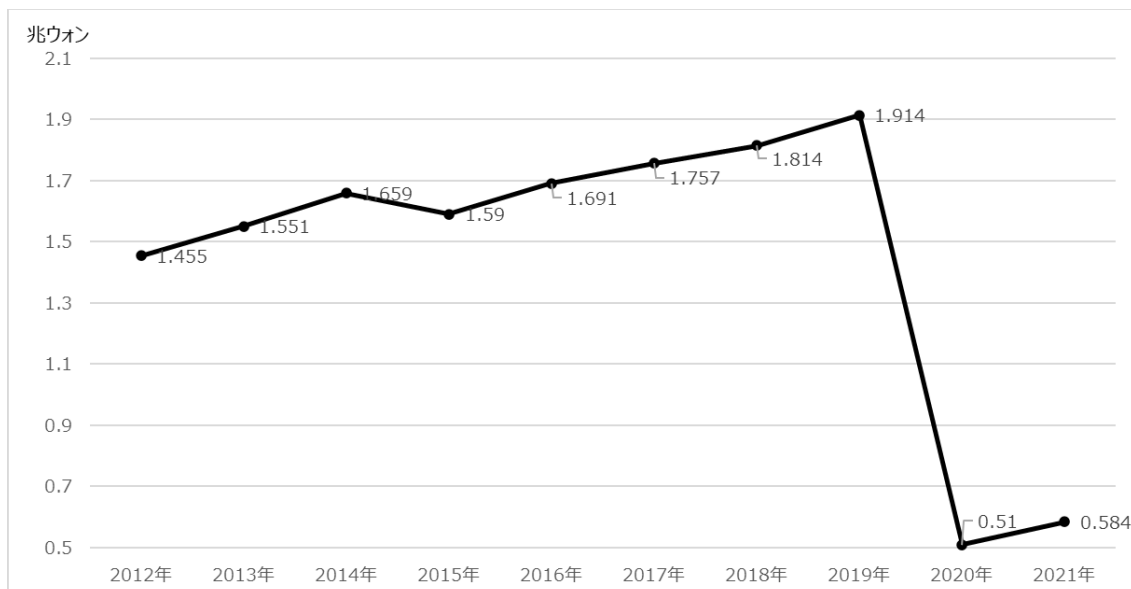
*製作本数、および国際共同製作本数はデータ無

韓国の国内市場規模

1. 興行収入 (2012-2021) ¹

* 10年間で9000億ウォン近くの成長を遂げたものの、2020年は3割弱に落ち込み、2021年に微増。

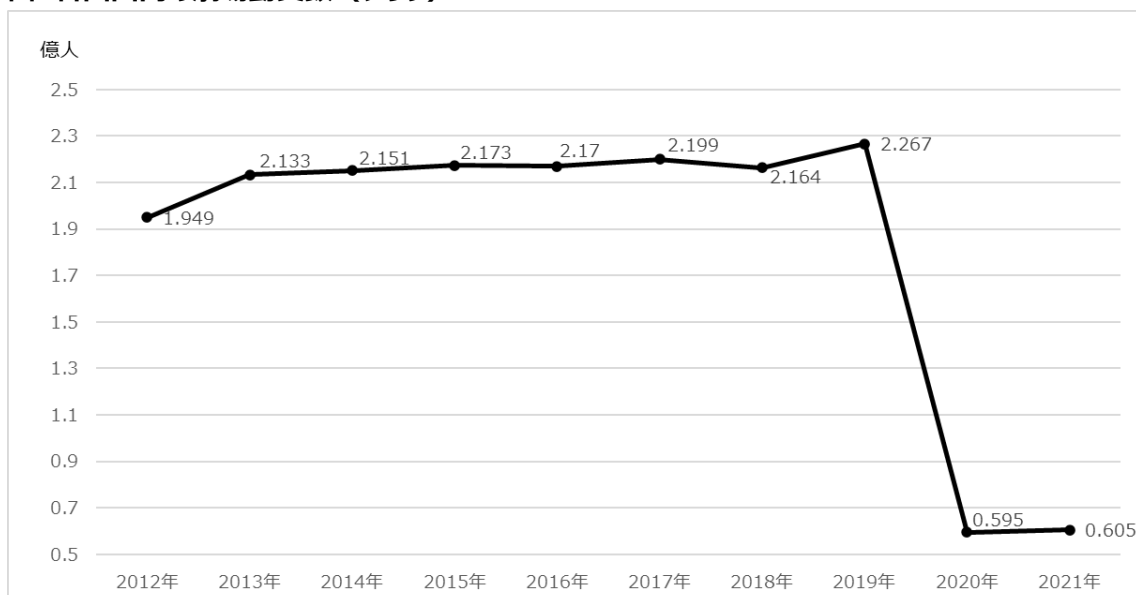
図 韓国国内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2012-2021) ²

* 順調に成長を続けていた動員数も、興行収入に比して2020年に大幅に減少した。

図 韓国国内の劇場動員数 (グラフ)



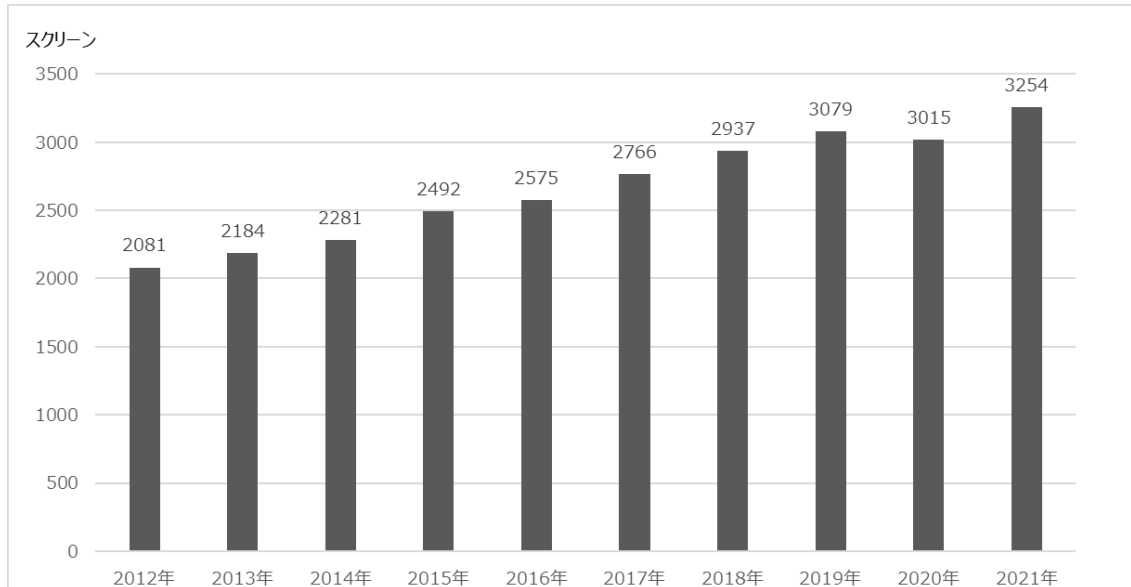
¹ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2012年版～2021年版を元に作成

² 同上

3. スクリーン数 (2012-2021) ³

*スクリーン数は年々増加し、2021年には3200スクリーンを超えた。

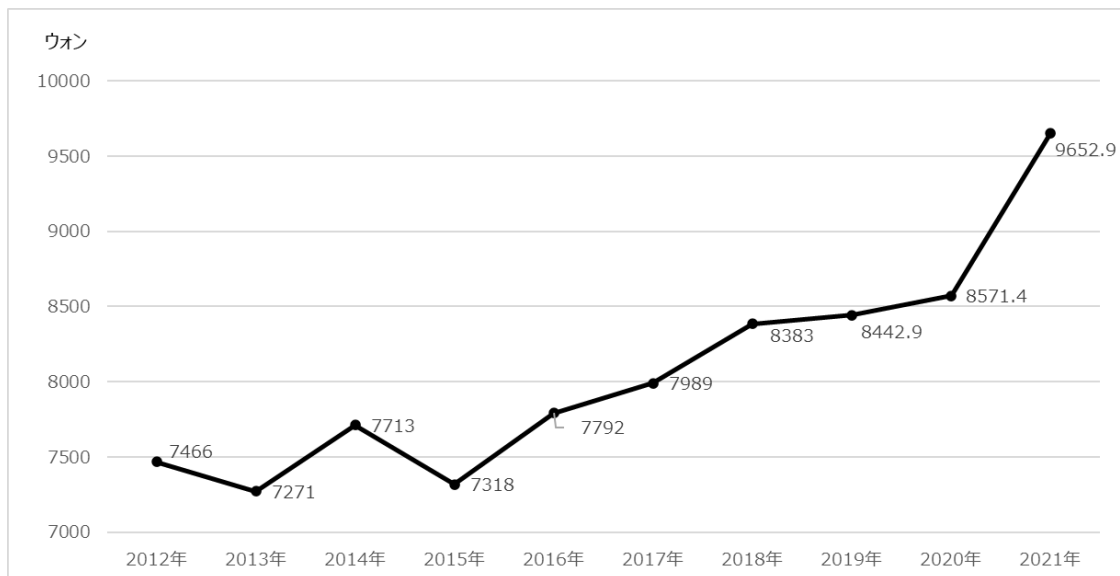
図 韓国国内のスクリーン数 (グラフ)



4. 平均チケット価格 (ウォン) (2012-2021) ⁴

*チケット価格は年により変動するが、2021年は一気に上昇している。

図 韓国国内の平均チケット価格 (グラフ)



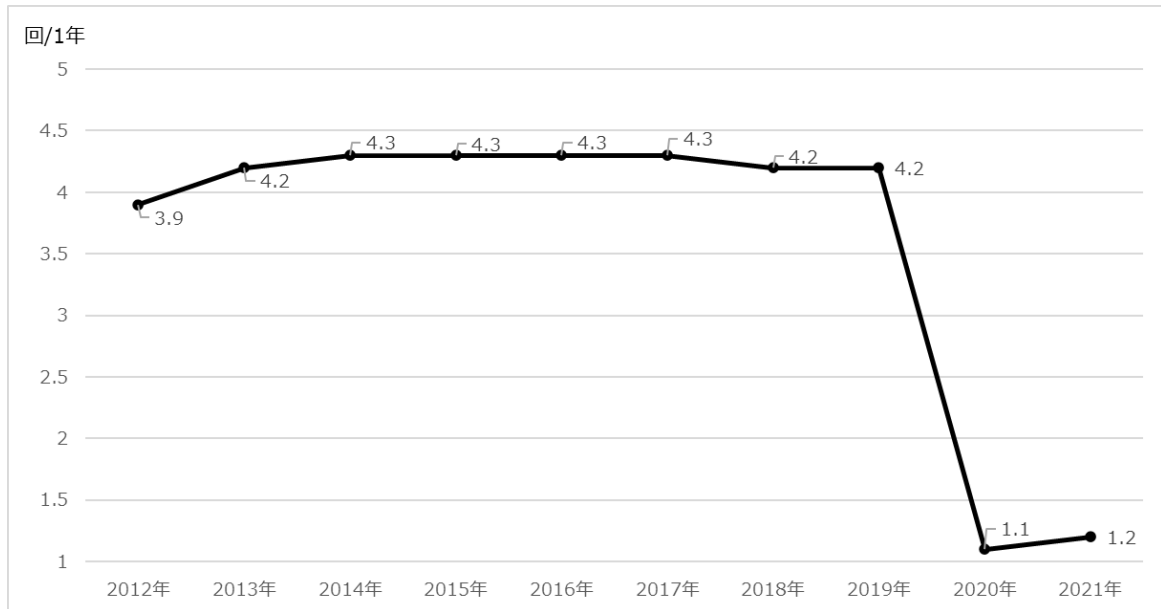
³ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2012年版～2021年版を元に作成

⁴ 同上

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2012-2021）⁵

* 常に4回以上の数値をキープし、他国と比べても回数は極めて多かったが2020年より落ち込んだ。

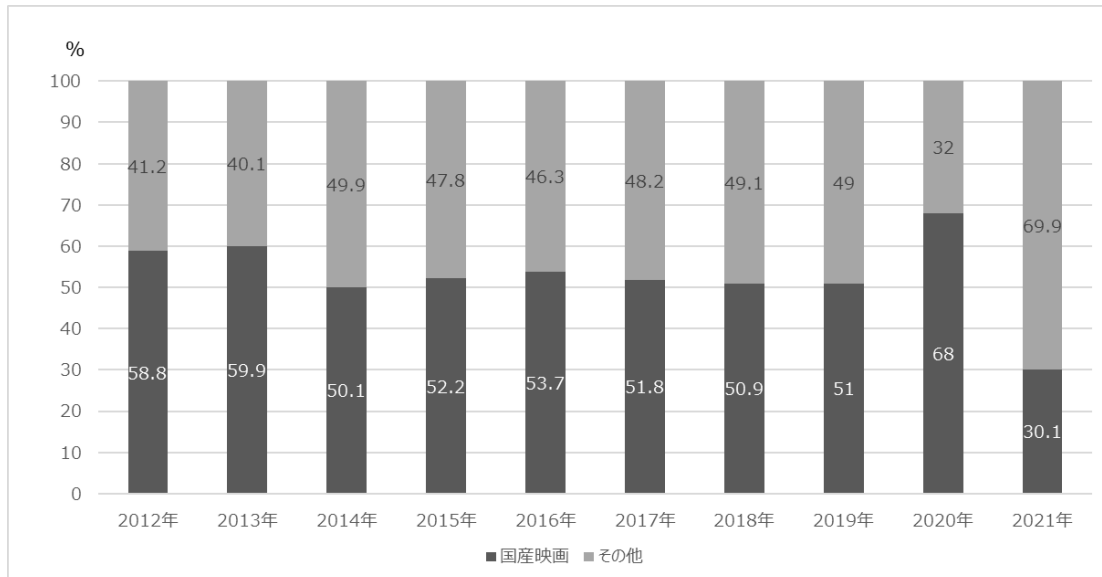
図 韓国国内の一人あたりの年間平均入場回数（グラフ）



6. マーケットシェアにおける国産映画の割合（2012-2021）⁶

* 2011年以降は常に半数以上を国産映画が占めていたが、2021年は3割落ち込んだ。

図 韓国国内のマーケットシェアにおける国産映画の割合



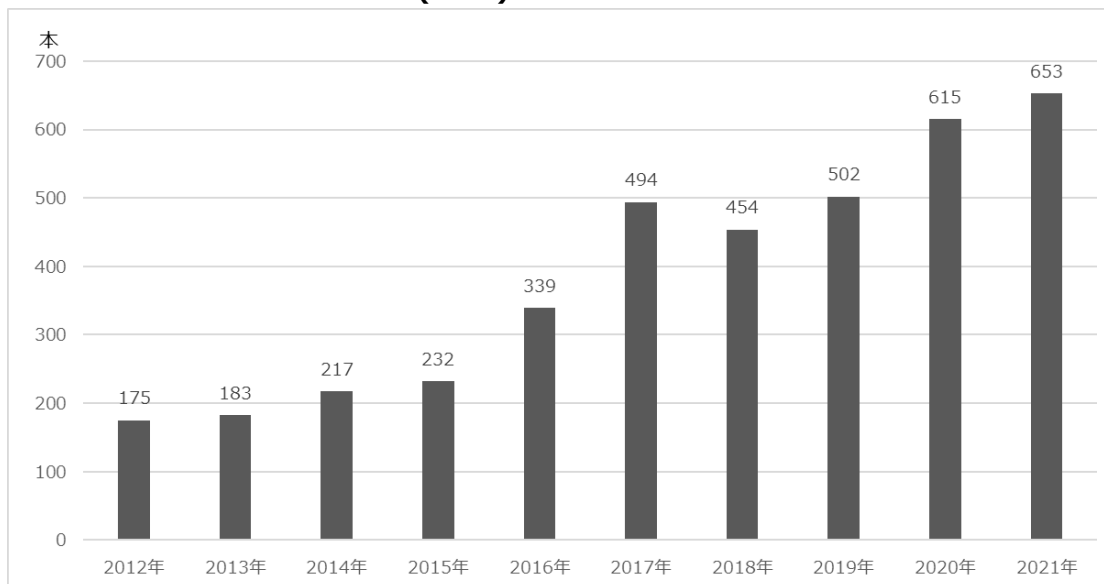
⁵ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2012年版～2021年版を元に作成

⁶ 同上

7. 国産映画公開本数（2012-2021）⁷

* 公開本数は、常に昨年を上回るペースで増加している。

図 韓国国内の国産映画公開本数(グラフ)



〔注釈〕

韓国は、「映画製作本数」の定点的な統計を取っておらず、本報告書には「公開本数」を掲載する。KMRB（韓国の映倫）に申請のあった年度を基準に数字を算出するため、正確な製作年を判断できないためである。

⁷ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2021年版を元に作成